

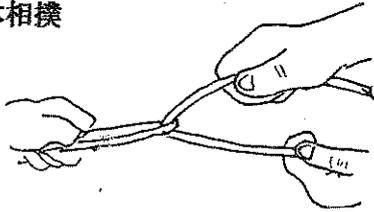
## 伝えたい「あそび」

---

みみみ そして やつみみ からだもころも動かしてよ  
伝えたい「あそび」をあつめました。

**草木あそび**

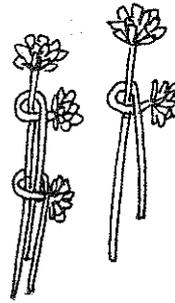
**草木相撲**



草をからめて、引っぱり合い  
相手を引きちぎれば勝ち。  
マツの葉、オオバコの花茎などを  
使います。材料の強弱ではなく  
引くタイミングと強弱がポイント

**レンゲの花輪**

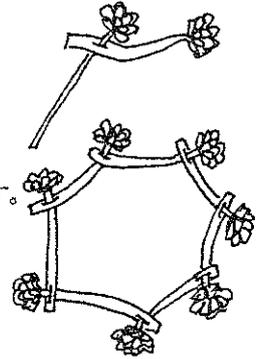
作り方①



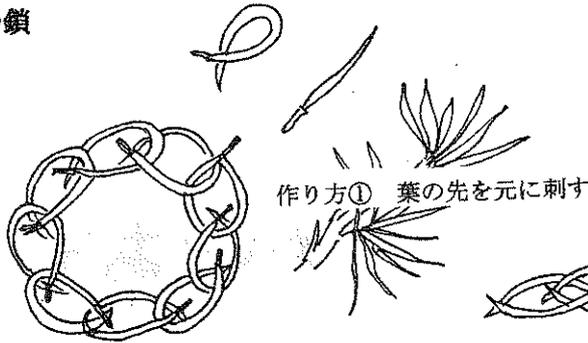
他の茎に一巻きして花の上に茎を出す。  
最後は茎で結んで輪にする

作り方②

茎を爪で裂いて通す  
最後の茎を長く裂いて  
最初の花をくぐらせて輪にする  
クローバーやタンポポでもOK



**マツの鎖**



作り方① 葉の先を元に刺す

作り方② 葉の先をもう一本の松葉に刺す

**ササの舟**

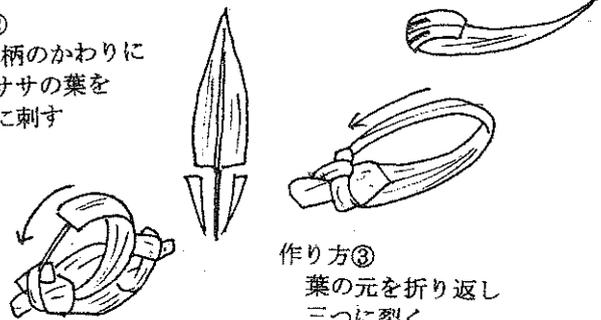
作り方①

柄を長くつけてとる  
→ 両端を折って  
三つに裂く  
→ 裂いた両はしを  
くぐらせて組む



作り方②

①の柄のかわりに  
別のササの葉を  
船体に刺す

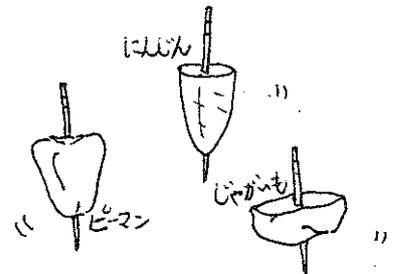
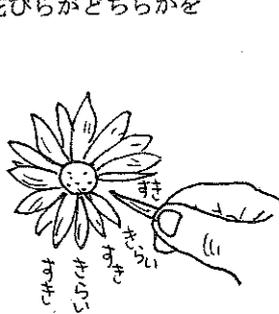


作り方③

葉の元を折り返し  
三つに裂く  
裂いた左右を組み、そこに  
葉の先を差し込む

**草木うらない**

花びらを「すき」「きらい」などと  
いいながら一枚ずつ抜きとっていく。  
最後にのこった花びらがどちらかを  
決める占い。

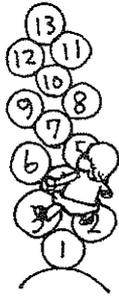


野菜のこま

# 広場遊び

## 石けり

丸



区画1に石を投げ入れ、2, 3に両足で立ったあと片足、両足の順で13まで進む。帰りは2の区画に片足で立ち石を拾ってスタートにもどる。つぎに2に石を入れ同様にくり返し進む。線を踏んではいけないなどのルールを決め、違反したら次の人にかわる。早く13までいけたら勝ち。

かいく

5	10
4	9
3	8
2	7
1	6

区画1に石を投げ入れ、片足で1, 2, 3...5まで蹴り進む。5で線外に蹴り出した石を拾い6に投げ入れる。片足で5, 4, ...1ともどり、今度は6から7, 8, ...10へと蹴り進む。失敗したら交替。早く出来た人の勝ち。

## 陣取り



スタートの合図で双方が走り出し、ぶつかったらジャンケンをし、勝った方は前進、負けた方は次の人にかわる。先に相手陣地に達した方が勝ち。

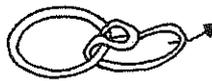
長, 角

上がり
ニ天
8
7 5 6
4
3
2
1

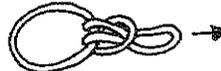
区画1に石を投げ入れ、片足で1に入って石を線外に蹴り出す。次に2に入れ、同様に蹴り出して順次進む。二天の位置で石を拾い、上がり区間に片足で入り、元の位置まで石を蹴り出す。

## ゴムとび

ゴム輪の作り方



次々となつなげていき2mの長さにする。



ゴム段

2m前後の生ゴムひもか、輪ゴムをつないだものを用意します。ゴムを持つ子は向かいあい、地面に平行にゴムを張ります。他の子はそれを飛び越します。ゴムの高さは

- ① くつ ② ひざ ③ 手 (きおつけをして) ④ おへそ ⑤ ウエスト ⑥ 腋の下
  - ⑦ 肩 ⑧ 耳 ⑨ おでこ ⑩ 頭の上 ⑪ 手を上げて と変化させます。
- もし、同位置を三度飛んでもひっかかれば、ゴム持ちになります。

女とび



逆立ちとび



ケンケンとび



男とび



片足でゴムひもを押しさえながらとびます

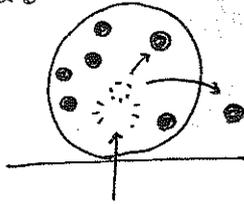
地面に手をつけてゴムをひっかけてとびます。

飛び越えたあと片足で着地します

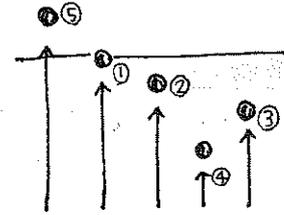
IV 伝えたい「あそび」

**ビーだま** まず地面に星形や円の図を描きます。各自が  
 数個ずつの玉を出し合って図の中に並べます。順  
 番で一定距離からビー玉を投げ入れます。  
 図の中の玉をはじき出すと、そのビー玉がとれる  
 というゲームです。

まる



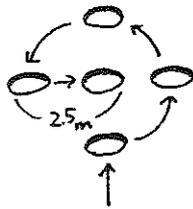
順番ゲーム



3~4メートル先に横線を一本引き、一定距離から  
 ビー玉をころがします。線にいちばん近い者が勝ち。  
 全部のビー玉をとることができます。

各自が2個ずつビー玉を出し合い、まるの中に置  
 きます。約3メートル手前の線からビー玉をころ  
 がして、円外にはじき出したビー玉をとります。

ポリボックス



約2.5メートル間隔にあけた穴にビー玉を順番ど  
 りに入れていくゲームです。最後の穴に早くたどりつ  
 いたら勝ち。

まりつき

まりつきはただつくだけではなく、いろいろな  
 変化をもたせます。「あんたがたどこさ、肥後さ・  
 ・」というように、小説の最後までまりを手  
 の甲にのせたり、片足をあげてまりをくぐらせたり、  
 体を一回転させたりします。  
 そして歌の最後では、まりを両足の間から後方に  
 突き上げスカートの中に入れておさめたりします。



あんたがたどこさ

あんたがたどこさ 肥後さ

肥後どこさ 熊本さ

熊本どこさ 船場さ

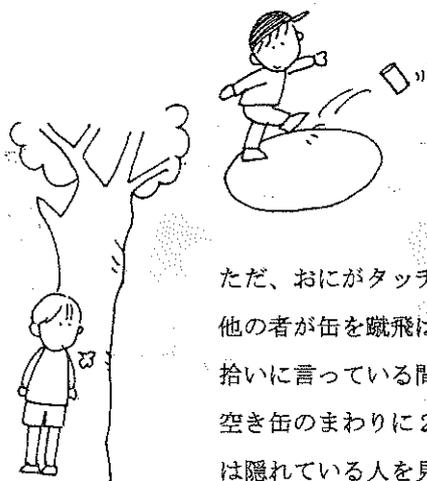
船場山には 狸がおってさ

それを猟師が 鉄砲で撃ってさ

煮てさ 焼いてさ 食ってさ

それを木の葉で ちよいとのおつかぶせ

かんけり



広場の中央に空き缶を1個立てて、そのまわりに  
 円を描きます。おには、空き缶のところで大きな  
 声で数を数えます(50から100ぐらい)。  
 その間に他の者は隠れます。おには隠れた人を見  
 つけると、名前を呼んで空き缶のところへ駆け戻  
 り足で缶にタッチします。  
 名前を呼ばれたひとが次のおになります。

ただ、おにがタッチする前に見つけられた人か、  
 他の者が缶を蹴飛ばせば助かります。おにが缶を  
 拾いに言っている間に再び隠れてしまえばいいのです。  
 空き缶のまわりに2mほどの円を描きますが、おに  
 は隠れている人を見つけたときにしかこの中へは入れません。



まだまだ、他にもたくさんあります。また、地域によってやりかたが違ったりします。もつ  
 と知りたい方は地域の公民館の図書室や図書館などでしらべてください。